

4月2日日経新聞に「国産大豆増産への取り組みにカネカが参加する」旨の記事が掲載されました

(要約)

・この取り組みは、味の素や理化学研究所を中心として29の企業・研究機関が連携して、IT技術を活用し、仮想空間上に再現した畑を使って国産大豆の生産量を現状比約2.5倍に増やすことを目指す。

・企業は味の素に加えカネカや花王など16社が参加、研究機関は理化学研究所に加えて東京大学など13組織が参加する。2028年に事業主体の新会社を作り、システムを稼働させる予定である。新システムでは、産地や都道府県での収穫量や品質の予測、畑での栽培や売買取引管理、最適な土壌づくりの栽培者への助言を行う。

・大豆は、たんぱく質などの栄養素が豊富な点が支持され、世界で争奪戦が起きている。一方で輸入大豆は、気候変動や中国などの需要増に加えて円安により買い負けるリスクが高まっている。

・国内食品企業が使う大豆の国産比率は2割台だが、後継者難で農家数の減少が続いている。

・こうした事情を背景として、今回の取り組みがスタートする。

以上